

広島、瀬戸内から

Harmony Expanded from Hiroshima and Seto Inland Sea

つながる“わ”

平成26年 (2014) 4.16^水 - 6.29^日



はじめに

たとうび
多島美と穏やかな気候、そして温かな人の心は、瀬戸内に生きる私たちの原点です。本展は、“島の輪がつながる。人の和でつなげる”をテーマに開催する瀬戸内しま博覧会「瀬戸内しまのわ 2014」（3月21日～10月26日）の自治体等企画イベントとして実施します。海道によってつながる島の輪、そこから育まれた人の輪、そして広島から伝える平和の和—この展覧会において“わ”は多くのことを意味しています。時間とともにうつりゆく瀬戸内の光を見せてくれる吉田博《瀬戸内海集》をはじめ、厳島の神事を優美に描いた里見雲嶺《管絃祭の図》（5月20日から展示）など、そこにはドイツの有名な地理学者リヒトホーフエンが「これ以上のものは世界の何処にもないであろう」と絶賛した美しい情景が描かれています。そして、丸木位里ら多くのゆかりの作家たちが作品によって伝え続けている「平和」。これらの大切な“わ”を当館のコレクションによってご紹介する本展では、瀬戸内に賛歌を贈るとともに、訪れる人々をもてなします。



I 瀬戸内篇

瀬戸（海峡）に囲まれた内海を意味する「瀬戸内海」は、本州と四国・九州にはさまれ、紀淡海峡・鳴門海峡・豊予海峡・関門海峡によって外洋につながっています。

瀬戸内海の魅力は、大小3千の島々と穏やかな海、白砂青松、温かな気候と多様な生き物、明るい陽光と漂う^{もや}霧、四季や時刻で移ろう色彩などの自然環境に加え、古くからの、集落や建物、段々畑や行き交う船舶などに現れた人々の営みと、盛んな海上交通によって積み重ねられた歴史や文化とが、織り込まれて一体となっているところにあります。

前篇の「瀬戸内篇」では、章を追って、このような瀬戸内海の魅力を、風景・厳島・生き物・営み・人・イメージなどの側面からご紹介し、海道によってつながる輪、そこから育まれた人の輪を辿りたいと思います。



II 平和篇

後篇の「平和篇」では、広島から伝える平和の“輪（和）”としてまずはじめに、第一次世界大戦と第二次世界大戦との間の時代の作品を中心に「混沌の時代と調和を求め心 - 両大戦間の美術 - 」と題して、紹介します。また、最終章では「広島から広げる平和と友好のメッセージ」と題して、広島の願い、平和について考えます。



瀬戸内しまのわ 2014 について

開催エリア：広島県・愛媛県の島しょ部および臨海部 期間：3月21日～10月26日

瀬戸内に浮かぶ島々が、ひとつの「わ（輪）」のようにつながり、日本のこれから、世界のこれからを豊かに生きていくきっかけをつかむことができるようなイベントにしたい。瀬戸内に暮らす人々、瀬戸内に育まれた人々、そして瀬戸内を訪れる人々、瀬戸内に「わ（和・縁）」のあるすべての人に瀬戸内の元気やぬくもりを感じていただけるようなイベントにしたい。このような願いを込めて今回実施する瀬戸内しま博覧会を「瀬戸内しまのわ 2014」と命名。季節ごとに島々の魅力をPRするメインイベントのほか、地域の魅力を活かしたイベントを春～秋にかけて実施する。200以上のイベントを、瀬戸内エリアで開催します。

I-1 瀬戸内の風景

オランダ商館付医師フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト(1796年-1866年)は近代的な地理概念(内海、多島海)で瀬戸内を見つめ、その美しさをいち早く認めた欧米人。やがてこのような瀬戸内の見方が国際的に普及し、定着していきました。彼は「…この内海の航海をはじめて以来、われわれは日本におけるこれまでの滞在中もっとも楽しみが多い日を送った。船が向きをかえるたびに魅するよう美しい島々の眺めがあらわれ、島や岩島の間に見えかくれする日本(本州)と四国の海岸の景色は驚くばかりで…」(文政9・1826年の江戸参府の際の紀行文より、『江戸参府紀行』斎藤信記1967年)と記し、瀬戸内の風景を絶賛しました。夏目漱石の『三四郎』に展覧会について記述のある、画家で版画家の吉田博は、刻一刻と移り変わる瀬戸内海の美しさを版画連作に表わしました。本章では、吉田博の作品をはじめ瀬戸内の美しい風景を描く作品たちをご紹介します。



吉田博《瀬戸内海集「帆船 朝」》1926(大正15)年

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
1	吉田博	瀬戸内海集「帆船 朝」	1926(大正15)	50.0×35.9	木版・紙・マット装		前期
2	吉田博	瀬戸内海集「雨後の夕」	1926(大正15)	24.8×37.4	木版・紙・マット装		前期
3	吉田博	瀬戸内海集「帆船 午前」	1926(大正15)	50.8×36.1	木版・紙・マット装		前期
4	吉田博	瀬戸内海集「帆船 霧」	1926(大正15)	50.9×36.0	木版・紙・マット装		前期
5	吉田博	瀬戸内海集「帆船 夜」	1926(大正15)	50.8×36.1	木版・紙・マット装		前期
6	吉田博	瀬戸内海集「鞆の浦」	1927(昭和2)	24.8×37.6	木版・紙・マット装		前期
7	吉田博	瀬戸内海集 第二「倉」	1930(昭和5)	24.5×37.4	木版・紙・マット装		前期
8	吉田博	瀬戸内海集 第二「鍋島」	1930(昭和5)	24.6×37.8	木版・紙・マット装		前期
9	吉田博	瀬戸内海集 第二「三つ小島」	1930(昭和5)	24.6×37.4	木版・紙・マット装		前期
10	吉田博	瀬戸内海集 第二「木の江」	1930(昭和5)	37.5×24.5	木版・紙・マット装		前期
11	吉田博	瀬戸内海集「光る海」	1926(大正15)	37.2×24.7	木版・紙・マット装		後期
12	吉田博	瀬戸内海集「帆船 朝」	1926(大正15)	50.8×35.9	木版・紙・マット装		後期
13	吉田博	瀬戸内海集「帆船 午後」	1926(大正15)	50.9×36.1	木版・紙・マット装		後期
14	吉田博	瀬戸内海集「帆船 夕」	1926(大正15)	50.5×36.0	木版・紙・マット装		後期
15	吉田博	瀬戸内海集 第二「白石島」	1930(昭和5)	24.8×37.6	木版・紙・マット装		後期
16	吉田博	瀬戸内海集 第二「神の島」	1930(昭和5)	24.8×37.6	木版・紙・マット装		後期
17	吉田博	瀬戸内海集 第二「鞆の港」	1930(昭和5)	24.5×37.1	木版・紙・マット装		後期
18	吉田博	瀬戸内海集 第二「阿武兔の朝」	1930(昭和5)	24.6×37.5	木版・紙・マット装		後期
19	吉田博	瀬戸内海集 第二「潮待ち」	1930(昭和5)	24.6×37.6	木版・紙・マット装		後期
20	吉田博	瀬戸内海集 第二「静なる日」	1930(昭和5)	24.7×37.7	木版・紙・マット装		後期
21	森野圓象	静かな海	1975(昭和50)	高200×53×42	木、彩色		
22	小林和作	因島		31.0×58.0	鉛筆・水彩・紙・額装		前期
23	小林和作	岩子島(1)		31.0×48.0	鉛筆・水彩・紙・額装		前期
24	小林和作	尾道吉和(2)		23.5×48.0	鉛筆・水彩・紙・額装		前期
25	小林和作	尾道吉和(3)		30.5×34.5	鉛筆・水彩・紙・額装		前期
26	小林和作	鳴滝山より岩子島・因島を望む		31.0×57.0	鉛筆・水彩・紙・額装		後期
27	小林和作	岩子島(2)		31.0×40.0	鉛筆・水彩・紙・額装		後期
28	小林和作	尾道吉和(1)		32.0×40.0	鉛筆・水彩・紙・額装		後期
29	小林和作	尾道		31.0×48.0	鉛筆・水彩・紙・額装		後期
30	徳光思刀	倉橋島空尾風景	1974(昭和49)	88.0×212.2	木版・紙 額装		前期
31	平松純平	尾道風景	1973(昭和48)	75.7×98.1	水彩・紙 額装		前期
32	坂江重雄	滞船	1968(昭和43)	184.0×184.0	水彩・紙 額装		後期
33	坂江重雄	栈橋の見える風景	1956(昭和31)	110.0×78.0	水彩・紙 額装		後期
34	米山利助	風景	1922(大正11)	109.0×78.0	油彩・画布・額装		
35	南薫造	日の出	1949(昭和24)	53.0×65.5	油彩・画布・額装		
36	小林和作	阿波の海		80.3×100.0	油彩・画布・額装		
37	小林和作	紀州の海		80.3×100.0	油彩・画布・額装		
38	奥田元宋	室戸	1952(昭和27)	100.0×181.5	紙本彩色・額装		

I-2 神の島、瀬戸内の要衝 厳島

瀬戸内海には『万葉集』以来歌に詠まれた土地や故事来歴を有する名所旧跡が数多くあり、厳島神社はその代表と言えます。現在の海上に浮かぶ壮麗な社殿の基礎が築かれたのは平清盛によってでした(仁安3・1168年)。平家一門により平家納経を初めとする数多くの宝物も奉納され、その後も時の権力者たちの崇敬を受けて維持・拡張されてきました。そして、瀬戸内海航路の要衝に位置したことから、海の祭神として広域の商人から信仰を集め、神社の祭事に合わせて市が立ち、芸能が興行され、また、名勝地としても知られるようになり、多くの人々を引き寄せようになりました。

優雅な管絃祭の様子を描いた里見雲嶺《管絃祭の図》など多彩な厳島の魅力をご紹介します。



里見雲嶺《管絃祭の図》
1917(大正6)年(5月20日から展示)



六角紫水《国宝厳島神社蔵 松喰鶴蒔絵小唐櫃(模写)》
1922(大正11)年



《厳島図》
江戸時代 (5月20日から展示)

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
39		厳島・鞍馬図	江戸時代	高200×53×42	紙本彩色 屏風		前期
40		厳島図	江戸時代	50.0×35.9	紙本金地彩色 屏風		後期
41	里見雲嶺	管絃祭の図	1917(大正6)	37.2×24.7	絹本墨画彩色 軸装		後期
42	滝町宮嶋屋甚助板	芸州厳島絵図		50.9×36.0	木版・紙 額装		前期
43		厳島社頭之図-1		50.8×36.1	木版・紙 額装		前期
44	宮島塔岡佐伯屋	厳島社頭之図		50.9×36.1	木版・紙 額装		前期
45	宮島屋甚助板	芸州厳島船管絃絵図		50.8×35.9	木版・紙 額装		前期
46	宮島船津屋源吉板	安芸厳島御神社図		50.8×36.1	木版・紙 額装		後期
47	宮岳貞木 参嘉陵漫写 宮島船津屋源吉板	厳島弥山細見之図		24.8×37.4	木版・紙 額装		後期
48	貞十州写 浜之町舟津屋源吉改版	安芸厳島神社之図		50.5×36.0	木版・紙 額装		後期
49		厳島社頭之図-2		24.8×37.6	木版・紙 額装		後期
50	六角紫水	国宝厳島神社蔵 松喰鶴蒔絵小唐櫃(模写)	1922(大正11)	24.6×37.8	木・漆・蒔絵		
51	志村ふくみ	紬織着物 厳島	1985(昭和61)	24.8×37.6	絹・紬		
52	小林健一郎	櫛丸盆	1987(昭和62)	24.5×37.4	櫛・挽物		
53	小松寿山	松丸盆	1980(昭和55)	24.8×37.6	松・挽物		
54	川原繁夫	花器「彩河」	1969(昭和44)	24.5×37.1	陶器		
55	綿谷行四郎	宮島回廊	1973(昭和48)	24.6×37.5	紙本彩色 額装		
56	野村守夫	安芸の宮島	1971(昭和46)	31.0×48.0	油彩・画布 額装		
57	川瀬巴水	厳島の雪	1932(昭和7)	24.6×37.4	油彩・画布 マット装		前期
58	川瀬巴水	宮島の月夜	1947(昭和22)	37.5×24.5	木版・紙 マット装		前期
59	浜崎左髪子	厳島		24.6×37.6	紙本彩色 額装		後期
60	小林千古	厳島大元公園	1903(明治36)	46.2×38.4	紙本彩色 額装		

I-3 瀬戸内の自然の恵み—海の生き物—

瀬戸内海には周囲から流れ込む潮流により様々な魚が運び込まれ、500種類を超える魚類を初め、多くの水生生物が生活しています。身近なものだけでも、カキ、コイワシ(カタクチイワシ)、デビルカレイ、シャコ、アナゴ、メバル、ギザミ、タコ、タイなどなど。これらは食生活を豊かにしてくれるだけでなく、そのあふれる生命感は瀬戸内ならではの美術作品をも生み出してきました。竹原市で少年時代を過ごした陶芸家・今井政之は、瀬戸内の生き物たちを主たるモチーフとして制作し、また日本画・児玉希望の作品にもその微笑ましい姿が描かれています。



児玉希望《ひざかり》
1960(昭和35)年



今井政之《象嵌彩窯変磯蟹大皿》
1985(昭和60)年



今井政之《象嵌赫窯瀬戸の幸大皿》
1998(平成10)年

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
61	今井政之	象嵌彩信楽早春の芸予大壺	2000(平成12)	高30.5 胴径41.0	陶器		
62	今井政之	泥彩魚紋壺	1974(昭和49)	高54.6	陶器		
63	今井政之	苔泥彩漕花壺	1975(昭和50)	高42.7	陶器		
64	今井政之	象嵌彩窯変磯蟹大皿	1985(昭和60)	高8.7 径60.5	陶器		
65	今井政之	釉彩海老飾皿	1973(昭和48)	52.5×9.1	陶器		
66	今井政之	象嵌赫窯瀬戸の幸大皿	1998(平成10)	高8.0 口径73.5	陶器		
67	児玉希望	海禾(新水墨画十二題)	1959(昭和34)	57.0×67.0	絹本墨画 額装		
68	児玉希望	ひざかり	1960(昭和35)	51.0×58.5	絹本彩色 額装		

I-4 瀬戸内の人々の営み

瀬戸内海では、特有の気候風土を利用した様々な営みが行われてきました。漁業、造船など海にまつわる産業や、瀬戸内を代表する風物の一つ、島の頂上まで耕された段々畑では、様々な作物が育てられてきました。近代以降は、沿岸工業地帯が形成され、瀬戸内の風景も時代とともに変化してきています。いずれの場合も自然の恵みに感謝し、環境や生態系の保護などに配慮しつつ、自然と人々が共存共栄してきました。かつてオランダ商館付医師シーボルトが記したように「(人々の)千年の努力」によって今日の瀬戸内の姿があるのです。

本章では、「平穏な自然と勤勉な人生を感じる」と述べて精力的に瀬戸内の風景と営みを描いた南薫造の作品をはじめ、今日に至るまでの瀬戸内の営みとそれによって生まれた風景を絵画作品によって、ご紹介します。



南薫造《蒲刈島風景》
1949(昭和24)年

作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
69	和高節二	売魚婦	1933頃(昭和8頃)	134.6×52.4	紙本彩色 額装	
70	児玉希望	浦町の雑閑	1955(昭和30)	117.0×90.0	絹本彩色 額装	
71	和田貢	漁夫	1968(昭和43)	162.1×130.3	油彩・画布 額装	
72	水谷愛子	浜のおばあやん	1982(昭和57)	167.0×211.7	紙本彩色 額装	
73	坂江重雄	造船所風景A	1967(昭和42)	181.0×142.5	水彩・紙 額装	前期
74	坂江重雄	造船所風景B	1970(昭和45)	119.0×183.0	水彩・紙 額装	後期
75	名井万亀	大漁(二)	1960(昭和35)	97.5×162.0	油彩・画布 額装	
76	松井正	塩田	1936(昭和11)	97.0×162.2	油彩・画布 額装	
77	南薫造	石割	1911(明治44)	60.5×45.5	油彩・画布 額装	
78	南薫造	蒲刈島風景	1949(昭和24)	38.0×45.5	油彩・画布 額装	

I-5-1 瀬戸内から広がる海のイメージ

瀬戸内海が海峡を越えて大海につながっていくように、海から受けたインスピレーションでイメージが広がり、美術作品が生みだされていきました。日本画家・児玉希望が鳴門の渦潮から抽象画《瀾》を描いたり、陶芸家・木村芳郎が眼前の瀬戸内海を超えて海・空・宇宙などのテーマで制作しています。



木村芳郎《碧釉組鉢》
1984(昭和59)年



木村芳郎《青釉鳥文鉢》
1981(昭和56)年

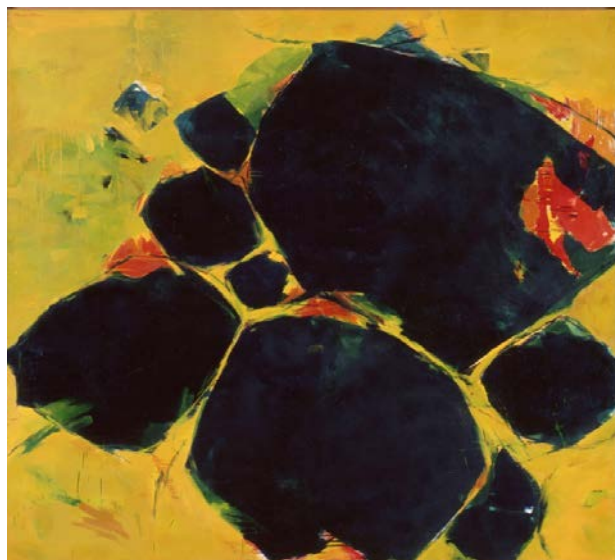
No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
79	児玉希望	瀾	1964(昭和39)	156.0×135.5	絹本彩色 額装		
80	木村芳郎	青釉鳥文鉢	1981(昭和56)	口径51.5 高12.0	陶器		
81	木村芳郎	碧釉組鉢	1984(昭和59)	(大)高10.2 径30.5 (小)高6.5 径18.3	半磁器		

I-5-2 瀬戸内から広がる人の輪(和)ー移住県・広島ー

我が国の海外移住は明治18(1885)年からのハワイへの政府間協定に基づく官約移民により本格的に始まりました。広島県は戦前、戦後を通じて我が国で最大の移住者を海外に送り出した移住県です。画家の小林千古(明治3・1870年ー明治45・1911年)や金光松美(大正12・1922年ー平成4・1992年)の両親もそうした移住者の一人で、夢を抱き、ハワイ、アメリカ、そしてヨーロッパに渡り、人や文化の輪(和)をつなぎ、広げていきました。



小林千古《ミルクメイド》
1897(明治30)年



金光松美《AUGUST》
1960(昭和35)年

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
82	小林千古	女子正面	1900~1901 (明治33~34)	90.0×76.0	油彩・画布・額装		
83	小林千古	ミルクメイド	1897(明治30)	69.0×50.8	油彩・画布・額装		
84	小林千古	茶器と梅花	1903(明治36)	18.5×65.5	油彩・画布・額装		
85	小林千古	母ワキ肖像	1899頃(明治32頃)	68.0×50.8	油彩・画布・額装		
86	金光松美	AUGUST	1960(昭和35)	182.8×182.8	油彩・画布・額装		

Ⅱ-1 混沌の時代と調和を求める心—両大戦間の美術を中心に—

この時代は、つかの間の安定から1929年の世界恐慌による暗転と対立、戦争への突入という激動の時代でした。複雑な世相を背景に、美術の世界ではダダイズム、シュールレアリスムなど多様な美術運動が現れ、混沌の中で自由と調和、社会正義を求めた、芸術家たちの心には、洋の東西を問わず共通性を見出すことができます。そんななか「明日の世界の建設と平和」をテーマに1939年に開かれたのがニューヨーク万国博覧会です。本章では、この博覧会に陳列された当館所蔵サルバドール・ダリ《ヴィーナスの夢》を中心にパブロ・ピカソ、ベン・シャーン、井上長三郎など社会問題をすどくついた作品やルネ・マグリットや巖光など混沌の時代を反映した不思議な世界を描いた作品などをご紹介します。



松本竣介《車庫近く》
1942(昭和17)年



巖光《二重像》
1941(昭和16)年



井上長三郎《屠殺場》
1936(昭和11)年

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
87	井上長三郎	屠殺場	1936(昭和11)	203.0×270.0	油彩・画布 額装		
88	サルバドール・ダリ	ヴィーナスの夢	1939(昭和14)	243.8×487.6	油彩・画布・パネル		
89	ルネ・マグリット	人間嫌いだち	1942(昭和17)	54.0×73.0	油彩・画布 額装		
90	フランシス・ピカビア	アンビトリテ	1935頃(昭和10頃)	92.0×73.5	油彩・画布 額装		
91	ベン・シャーン	強制収容所	1944(昭和19)	61.0×61.0	テンペラ・板		
92	ベン・シャーン	四人の検事	1931-32(昭和6-7)	24.8×37.5	グワッシュ・紙 額装		前期
93	ベン・シャーン	陪審員席	1932~1933(昭和7-8)	41.9×58.4	グワッシュ・紙 額装		後期
94	巖光	二重像	1941(昭和16)	24.5×20.0	墨・紙・額装		前期
95	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘	1937(昭和12)	31.8×42.3	エッチング・シュガー・ア クアチント・紙 マット装		後期
96	松本竣介	車庫近く	1942(昭和17)	33.4×45.5	油彩・画布 額装		
97	巖光	窓辺の花(百合)	1944(昭和19)	71.0×59.0	油彩・画布 額装		

Ⅱ-2 広島から広げる平和と友好のメッセージ

そして、第二次世界大戦は昭和20(1945)年8月の広島・長崎への原爆投下という悲劇により終結しました。当館では、こうした混乱と苦難の時代を忘れることなく、平和と友好のメッセージを伝えることを使命にしています。

原子爆弾被災後3日後の広島に戻り、救援活動に当たった日本画家の丸木位里や、旧制広島県立第一中学校(現・県立国泰寺高校)1年のとき、爆心から800mの校舎内で被爆し九死に一生を得たグラフィック・デザイナーの片岡脩など。ここ広島からは、忘れられないあの日を胸に、多くの芸術家が平和の願いを表現し続けています。



丸木位里《竹林》1964(昭和39)年



片岡 脩《LOVE PEACE》1985(昭和60)年



水船六洲《燭明り》1967(昭和42)年

No.	作者	作品名	制作年(年)	法量(cm)	材質等	員数	展示期間
98	丸木位里	竹林	1964(昭和39)	各210.0×270.0	紙本墨画 屏風		
99	水船六洲	燭明り	1967(昭和42)	高202×54×40	木、彩色		
100	片岡 脩	LOVE PEACE	1985(昭和60)	103×72.8	紙・シルクスクリーン マット装		
101	菅井 汲	CADMIUM ROUGE 19.20 (カドミウム・レッド19.20)	1993(平成5)	250.0×264.0	アクリル・画布		
102		伊万里柿右衛門様式色絵馬	江戸時代(17世紀後半)	高さ44.3 45.0	磁器 色絵		
103		重要文化財伊万里色絵花卉文輪花鉢	江戸時代(17世紀)	口径24.4 高11.5	磁器 色絵		

※出品目録と展示作品の順番は異なる場合がございます。

※作者、制作年について不明な場合は表記しておりません。

※展示期間に記載のない作品は通期展示します。

HPAM(エイチパム)コレクション展とは

広島県立美術館では、これまで「所蔵作品展」として開催してきた当館の所蔵作品展示について見直しを行い、平成26年4月から、「HPAM(エイチパム)コレクション」展として一新いたします。(HPAM(エイチパム)とは、広島県立美術館の英語表記「Hiroshima Prefectural Art Museum」の略称です。)

HPAM

Hiroshima Prefectural Art Museum
Collection 2014

コレクション2014

広島県立美術館の公式ロゴから新たに「HPAM(エイチパム)コレクション」展のロゴが誕生しました。



平成26年度広島県立美術館運営目標

『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる

当館の平成26年度の運営目標を「『美』の楽しさをやさしい気持ちでつたえる」として、お客様の視点に立って、当館のコレクションの美を楽しく、わかりやすくお伝えします。

県民の皆様は、当館所蔵のコレクションの宝を再発見し、これまで以上に感動していただける展覧会をお届けするため様々な取り組みを行います。



生まれ変わった「HPAM(エイチパム)コレクション展」で、 私たちは「美」の楽しさをやさしい気持ちで伝えるために様々なことにチャレンジします。

- 展覧会の企画意図や展示作品等、内容がわかる鑑賞ガイドの作成・配付を行います。
- 学芸員によるキュレーターズトークやワークショップなど、より充実したイベントをお届けします
- ギャラリーガイドを毎日開催！作品をより深く知っていただくために、当館では、毎日、広島県立美術館友の会によるギャラリーガイドを行います。
(平日：14:00～、土・日・祝日は11:00及び14:00～※休館日を除く)
- 「学芸員のお奨めの一点」をホームページ及びプレスリリースにて随時御紹介！
- 会場内での携帯電話やスマートフォン、iPad等のタブレット端末機による検索を自由に行っていただけます。気になる作品情報は、その場でチェック！
- 作品との写真撮影もOK！お気に入りの作品の前で記念撮影等もしていただけます。
※一部作品に限ります。



このマークが掲示されている作品は撮影可能です。